

秋の校外学習でピザ作り 食育への理解を深める

9月21日、古舞小学校の全校児童（21人）が満寿屋商店でパン教室を担当する^{あまがた}天方慎治さんらを講師に招き、石窯を使ったピザ作りに挑戦しました。



オール十勝の食材で

古舞小学校では毎年、秋の校外学習として食育への理解を深めることを目的にソーセージ作りなどの体験学習が行われていきます。今回は、業の魅力を広く発信する十勝産の協力により、「オール十勝の食材」を使ってピザ作り実験が行われました。

十勝産の小麦でピザ生地を作り、具材となるピーマンやタネギ、トマトなどは、十勝ヒルズで収穫されました。

仕上げにのせるチーズは、チーズ工房「NEEDS」の佐々木司さんの教えを受け、そうきょう工房に焼かれました。

上手に焼けたかな…

「窯で焼き上げたピザを食べ、宇野希弥さんは「生地を上手に伸ばせなかったのが残念。ピザはすごくおいしい」へ顔で話していました。

「勝ヒルズを運営する「丸勝」吉村透さんは「地元で取れた物を地元で食べる取り組みが素晴らしい。この学習を通じて、子どもたちには食育への理解を深めてほしい」と話していました。



古舞小学校 今昔物語



▲旧古舞小学校



▲現在の古舞小学校

明治36年頃、子弟の無就学を解消するため大西大吉さんが学校創設の声を上げたのが、古舞小学校の始まりとなりました。

古舞簡易教育所が開講した当時は、ノートと鉛筆は貴重品でした。代用品として、石版と石筆を使って勉強していたそうです。70周年記念誌「あゆみ」の中で、大正5年卒業の松田喜太郎さんは「風呂敷に教科書と石版を背負って通学しており、重くて大変苦労した」と語っています。

明治44年頃、入植者が増加したことに伴い、児童数も増加していきました。大正9年には、児童数が過去最高の154人となりました。その後40年間、児童数を維持していましたが、昭和40年代以降から減少していきました。

古舞小学校 の沿革

- 1905年（明治38年）古舞簡易教授場として開校
- 1916年（大正5年）古舞尋常小学校の指定
- 1947年（昭和22年）6・3・3制実施により古舞小学校として名称を変更
- 1955年（昭和30年）50周年記念式典・記念碑除幕式
- 1965年（昭和40年）開校60周年を記念し、記念植樹を実施・校歌を制定
- 1975年（昭和50年）70周年記念式典・記念植樹（ナナカマド20本）を実施
- 1977年（昭和52年）新校舎（現校舎）落成記念式典・屋内体育館完成
- 2005年（平成17年）100周年記念式典

学校概要

学校長	五十嵐 雅之
教員数	7人
学級数	3学級
生徒数	21人

※概要は平成24年5月1日現在